

尿中馬尿酸：コーヒー〔クロロゲン酸類〕の摂取

環境・健康

コーヒーに含まれるクロロゲン酸類の大部分は腸内でカフェ酸とキナ酸に分解されて吸収されます。吸収されたキナ酸は、安息香酸、馬尿酸となって尿中に排泄されます。また、コーヒーの焙煎工程などでクロロゲン酸が加水分解されキナ酸が生成します。下記表にコーヒー中のクロロゲン酸類の含有量を示しました。

なお、ヘルシアコーヒーは、コーヒーポリフェノール（クロロゲン酸類）を関与成分とした、血圧の高めの方に適する旨を特定の保健の目的とする特定保健用食品となっています。

コーヒーから摂取したクロロゲン酸・キナ酸は、代謝され尿中に馬尿酸として排泄されるため、クロロゲン酸の分解・代謝等の状況によっては尿中馬尿酸の分布区分に影響するレベルで検出されることが考えられます。

コーヒー中のクロロゲン酸類の含有量

コーヒー	クロロゲン酸類含有量	参考文献等
レギュラーコーヒー	30～230 mg/1 杯	食品安全委員会新開発食品 専門調査会第 50 回会合議事録 (2008)
インスタントコーヒ	50～140 mg/1 杯	
コーヒー	30～240 mg/1 杯 40～350 mg/1 杯	

kes サポート

課 題	kes サポート
尿中馬尿酸の検査値に影響する食品の摂取	情報の提供など
作業者のトルエンのばく露状況の調査	尿中トルエン、血中トルエンの検査
	個人ばく露モニタリング（トルエン）